



前進

第11号

12月21日発行

文責：濱田

育てたい力：共感力・探究力・協働力

◎東熊会里帰り講話を実施しました。

12月15日（木）に、東熊会里帰り講話を6年生対象に実施しました。東熊会とは、首都圏在住で熊本県出身の企業役員及び企業役員経験者で構成する任意の親睦団体です。県教育委員会は、児童生徒の職業観や勤労観を育成するため、東熊会の方を講師として県内の小・中・高校で里帰り講話を例年実施しています。



佐敷小に来校されたのはセラミックコンデンサの開発・製造等を行っている太陽誘電（株）の元代表取締役社長の神崎芳郎様でした。太陽誘電（株）は以前 That's ブランドの CD-R も製造していました。

神崎様は、熊本大学出身で、就職を決める際に「世界を舞台にして日本人としてグローバルに仕事をしたい」という夢を持ち、1965年に日立に就職されました。その後、1993年に太陽誘電に入社され、2006年に代表取締役社長、2011年に代表取締役会長就任という経歴をお持ちの方です。

子供たちに学校で心掛けてほしいこと、身に付けてほしいこととして次の話をされました。

- 学校は学びの場。交流の場。人として育つ場。
- 授業では積極的に質問し、分かるまで先生に聞くこと。
- 読書は知識・語彙力も増え、成長に大いに役立つ。
- 疑問や好奇心が大切。納得できるまで追究する探究心はもっと大切。
- これに関しては誰にも負けないというものを持つこと。
- 友達をたくさん作り、交遊を深めること。
- 失敗しても、叱られてもくじけない忍耐力が必要。
- 将来の夢を持って挑戦すること。
- 社会生活において、守るべき決まり事をきちんと守って行動すること。



また、社会で求められる人間像として「できない理由を考えるより、どうすればできるかを考える人」「高い倫理観と行動、周囲への思いやり・気配りができる人」が

期待されると話されました。

神崎様は講話の最後に「私は熊本は素晴らしいところだと思っている。皆さんも郷土に誇りをもってもらいたい。」と話されました。本校の子供たちも将来夢を実現させるために、芦北の地を離れて遠くの地で、あるいは外国でグローバルに活躍する日が来るかもしれません。どこで活躍しようと、生まれ育った郷土芦北町や熊本県が心の拠り所になることを願っています。

◎デコポン農園の見学

12月12日(月)に、3年生は本校保護者田中さんの果樹園を見学させていただきました。

温かい気候で、絶好の見学日和でした。ビニルハウスの中は大変快適で、一つ一つのデコポンが丹念に育てられているのがよく分かりました。

田中さんのご厚意で、子供たちも収穫させていただきました。採れ頃のデコポンを一生懸命探して、採集バサミで丁寧に収穫し、大切に持って帰りました。見学の際にいただいたデコポンはみずみずしく、大変おいしいものでした。子供たちにとって貴重な体験となったことと思います。

デコポンが芦北の特産物であることは知っていながら、果樹園の見学や収穫体験を実際に行う機会は少ないかと思います。記憶に残る学びの時間となりました。

◎九九を頑張っています。

2年生の教室からは、九九を唱える声が聞こえてきます。すでに九の段まで学んでおり、現在は完璧を目指して頑張っています。これから九九とは長い付き合いになります。マスターするのは大変だけど、全員クリアを目指して頑張れ2年生。応援しています。



【校長室から】早いもので2学期の学年末を迎えました。今学期も新型コロナウイルスの感染流行に左右されましたが、運動会や修学旅行、集団宿泊教室など、感染防止に配慮しながらできる限りの行事が実施できました。保護者の皆様のご理解とご協力に感謝しています。これから年度末、新年を迎え、人の流れも多くなるかと思えます。ご家庭でも感染拡大に十分お気を付けください。子供たち・保護者の皆様が良い年を迎えられることを願っています。